



3 ポートキャンパスの構成

ポートキャンパスはA:船待ち交流街区とB:まちなかくつろぎ街区と臨港道路を挟んだターミナル(t)、ジョゲートウェイ(g)、出会いの広場(p)、他港湾施設からなるT:ターミナル街区から構成されます。

A街区とB街区の間の国道を「キャンパス通り」、臨港道路のキャンパス内部分を「ポートアベニュー」とし、低層化、通り抜け交通を最小化し、安全なキャンパスエリアとします。沿道には広くなった歩道に飲食やお土産などの商店が並び、沿道照明によって夜も明るく安心な景観をつくります。

キャンパスの安全・安心
またA街区とB街区、臨岐ポートプラザ(OP)、ターミナル(t)と出会いの広場(p)は2Fレベルでブリッジで接続されており、悪天候時、災害時でも安全に施設間の移動が可能です。

A 船待ち交流街区

3F 吹抜けを囲む温浴施設とく島の大学

海を眺められる温浴施設には海水温浴エリア(タラソテラピー)が設置され、町民も観光客もともに楽しめます。またく島の大学では、21世紀型の島内外交流を促し、子どもたちの新しい教育環境をつくるデジタル田園都市構想にチャレンジする人々を応援する設備を完備します。

2F 全シーズン型広場と海を望む大階段 こども達の溜まり場「船待ちテラス」

吹抜けから自然光が降り注ぐ船待ちテラスは全天候型の公共スペース。イベントなどにも活用できます。冬期は透明のビニールで出来た防風カーテンで仕切ること、寒い海風も防ぎます。

船待ちテラスには無料で楽しめる「足湯」も設置。あたたかい気持ちで船が来るのを待つことができます。

こども達の居場所になるライブラリー・児童館を船待ちテラスに配置。西郷中学生・小学生が公共交通機関で来れる交通整備をすることで、西郷地区のこども達にとって家や学校だけではない「第3の居場所」(サードプレイス)になります。

水産高校の海洋クラブ・食品クラブなどの活動の場所として、Wifi環境の整ったシェアキッチンとライブラリー、DVD鑑賞、カフェが複合化した場所が西郷地区にあることで、若者の活動の発信地でもあり、多世代の島民交流の場所となります。

船待ちテラスでは、船を待つ島外の方だけでなく、高校生・中学生の日常的な居場所など、島の人の活動の場になります。

既存の店舗とチャレンジショップあんき市場の入りフードホールでは、臨岐の海の幸・山の幸を堪能します。

A 船待ち交流街区

1F 臨岐の食どころ「あんき横丁」

2F町民広場の下には、地元の島水産物や食を楽しめるフードホール「あんき横丁」を配置。キャンパスのあらゆる所からアクセスでき、近隣住民にとっても立ち寄りやすい「港の駅」です。

p 出会うの広場

港の健康づくりスポット

イベント時には屋根下を本部や休憩場所に活用できます。土壌や風土・潮風に強い樹種を採用することで、日常・イベント共に様々な舞台を演出する環境を整備します。

既存施設と本提案の規模 (改訂版)

海水温浴施設	915㎡ (新しく整備)	島大	629㎡ (新しく整備)
島の大学	2103㎡ (新しく整備)	学業保育・中高生向け	292㎡ (新しく整備)
商業(飲食・衣類)	559㎡/10店舗	商業(飲食)	570㎡/6店舗
商業(百貨店)	91㎡/2店舗	商業(百貨店)	99㎡/3店舗
商業(物産店)	157㎡/2店舗	商業(物産店)	184㎡/1店舗
商業(産直市)	1400㎡/26店舗	駐屯地/税務	64台/28台



B まちなかくつろぎ街区

2F・3F 安心して街中に暮らせる ハウジングと滞在施設

防災上安全な2F以上に住宅と滞在施設を配置します。生活利便性のあるA街区にもブリッジで往来することができます。

t ターミナルの改修

2F 島への帰還を出迎える 先輩ラウンジ

フェリー連絡橋からつながる2Fには高校生達と共にデザインした家具などで先輩の里帰りを迎えるラウンジを設置。島を離れても、つながっている関係をサポートする空間。

B まちなかくつろぎ街区

1F キャンパスの街並みをつくる 商店の賑わいと駐車場

広がった歩道に軽食や喫茶、土産店などが軒を連ねて港の賑わいをつくります。駐車場は道路側とピロティに分散して配置。一部、既存の商店を残しながら開発を行います。

T ターミナル街区(港湾)

旅立ちを見送る島の名所

無数の紙テープで旅立つ人を見送る臨岐の島ならではの情景。故郷らしい景観とするため、バス乗り場の屋根などを石州瓦で統一感のあるデザインに。

